

とやまの砂防

第79号

令和7年2月12日
発行



CONTENTS

園地区のクライミングマシン	1
令和6年度砂防関係事業の9月補正、 11月補正予算について	2
立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取組について	2
令和6年土砂災害発生状況及び 土砂災害警戒情報発表状況	2
北陸信越地区支部長・参与会議及び 全国地すべりかけ崩れ対策協議会理事会の開催	3
「全国治水砂防促進大会」の開催	3
砂防ボランティア協会との意見交換	3
砂防関係団体に知事感謝状を授与	3
おらっちゃんの砂防 朝日町の砂防事業について	4
土木センター・事務所紹介 (高岡土木センター小矢部土木事務所)	4
後進に告ぐ	5
令和6年度富山県治水砂防協会通常総会の開催	6
富山県治水砂防協会研修会等の開催・参加	6
主な砂防関係活動広報・報道等実績	6
県総合防災訓練及び市町総合防災訓練への参加	7
富山県議会砂防事業促進議員連盟の活動	7
「防災講演会in小矢部市」の開催	7
立山カルデラ砂防博物館ニュース	8

写真の解説

園地区のクライミングマシン

1月1日に発生した令和6年能登半島地震により、県内で最大震度5強を観測し、園(2)地区(氷見市)では人家に隣接した斜面が高さ約22m、幅約40m、厚さ約1mの範囲で崩壊しました。地域の人家(11軒)に被害はなかったものの、崩壊した土砂と倒木が家屋の2～5m手前に堆積しました。

氷見土木事務所では、崩壊した斜面状況を把握するため、観測機器の設置、斜面監視により、氷見市へ情報提供を行いました。累計約100mm程度のまとまった降雨があると斜面の不安定土塊に基準値以上の挙動が確認されることから、6～7月に除去作業を実施しました。

上記の写真は、RCM工法(ロッククライミングマシン)による不安定土塊の除去作業の状況です。人家に隣接しており作業ヤードの確保が困難な箇所ですが、斜面上部にある立木をアンカーにして、アンカーと高所法面掘削機をワイヤーロープで固定することで危険度の高い高所作業ですが迅速かつ安全に施工できました。

令和6年度 砂防関係事業の9月補正、11月補正予算について

9月補正予算

9月補正予算では、県単独事業において令和6年1月の能登半島地震により斜面崩壊が発生した氷見市園地区の斜面对策や砂防河川の浚渫や伐木、施設修繕費などに、2億5,000万円を計上しました。

11月補正予算

12月17日に国の補正予算が成立しましたが、それに先立ち県では11月補正予算の追加提案を行っています。砂防関係事業では一般公共事業で15億2,900万円、直轄事業負担金で約4.7億円を計上しました。両補正予算を活用し、被災箇所の復旧と土砂災害の未然防止対策を推進し、県民の安全・安心な暮らしを守る取組みをスピード感をもって進めてまいります。

(単位:千円)

区 分	R6当初予算	9月補正	11月補正	R6現計予算	備 考
一般公共事業	4,267,000	0	1,529,000	5,796,000	補助事業、交付金事業
主要県単事業	429,000	250,000	0	679,000	砂防改良、砂防維持修繕 小規模急傾斜補助
直轄砂防事業負担金	1,719,000	47,880	466,667	2,233,547	立山、黒部川水系、 神通川水系直轄砂防
合 計 (直轄負担金除く)	6,415,000 (4,696,000)	297,880 (250,000)	1,995,667 (1,529,000)	8,708,547 (6,475,000)	

主 要 事 業

(1) 砂防総合交付金事業及び砂防関係施設整備事業による土砂災害防止施設の整備【11月補正】

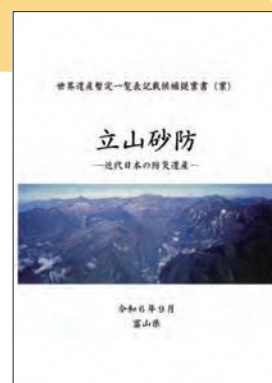
砂防事業 小矢部川水系池川【南砺市】ほか 28箇所
地すべり対策事業 湯地区【富山市】ほか 8箇所
急傾斜地崩壊対策事業 中ノ口(4)(5)地区【黒部市】ほか 7箇所
雪崩対策事業 上笹原清水地区【富山市】

(2) 県単独砂防維持修繕事業【9月補正】

園地区【氷見市】 被災箇所における応急対策(法面保護工) (ほか)

立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取組について

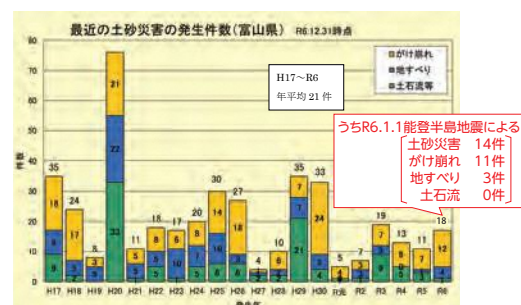
富山県では立山砂防の世界文化遺産登録に向けて、平成19年以降、「常願寺川砂防施設」の重要文化財指定等、様々な取組を進めていますが、顕著な普遍的価値の精査等の学術的な課題も残されています。県では有識者を交えたワーキンググループ「立山砂防検討会議」を設け、課題解決に向けた今後の調査研究の方針・内容の検討を進めています。本年度は、これまでの成果と検討会議でのご意見を基に「立山砂防世界遺産暫定一覧表記載候補提案書(案)」を作成し10月に文化庁に提出しました。4月には文化庁が新たに暫定一覧表に記載する資産を検討するためのWGを設置する等、新たな動きも見られており、引き続き、息の長い取組ではありますが、今後も粘り強く取り組んで参ります。また、令和8年(2026年)に直轄砂防100年(県営砂防120年)を迎えます。この期を好機と捉え、関係課・機関と連携し、世界文化遺産登録に向けた県民意識の醸成に取り組んで参ります。皆様方のご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。この他に砂防課では、英文冊子「Tateyama Sabo」、Tateyama Sabo Newsletter 2024(英文)をホームページに掲載し、世界に向けた情報発信にも取り組んでいます。



令和6年土砂災害発生状況及び土砂災害警戒情報発表状況

令和6年は、富山県内では18件の土砂災害(土石流1件、地すべり5件、がけ崩れ12件)が発生しました。そのうち令和6年1月1日に発生した能登半島地震による土砂災害が14件(地すべり3件、がけ崩れ11件)となっています。また、大雨による土砂災害のおそれが高まった時に富山県と富山地方気象台が共同で発表する土砂災害警戒情報は8回(6地域)発表されました。(年平均発表回数15回)

近年、富山県では線状降水帯やゲリラ豪雨により土砂災害の危険度が急激に高まり避難場所への避難が難しくなる場合が多くなっています。土砂災害警戒情報(警戒レベル4、市町から避難指示が発令される段階)が発表された時点で、すでに命が危険な状況になっていると考えられます。ハザードマップを確認し土砂災害警戒区域の外に避難することが原則ですが、避難場所に避難できない場合は、次善の策として①近隣の堅牢な高い建物の高層階への移動②斜面の反対側の2階以上の部屋への避難等、命を守る行動をとってください。



富山県における土砂災害警戒情報発表状況

	平成20年 (2008年)	平成21年 (2009年)	平成22年 (2010年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	合 計
発表回数	19	0	5	2	11	29	40	0	7	37	24	12	6	16	11	20	8	247
発表地域数	10	0	4	2	10	15	16	0	5	14	15	9	5	14	9	14	6	148

※能登半島地震を受けた土砂災害警戒情報の暫定基準は、令和7年1月28日午前11時をもって廃止しました。

全国治水砂防協会北陸信越地区支部長・参与会議及び全国地すべりがけ崩れ対策協議会理事会が開催

令和6年10月7、8日に「令和6年度（一社）全国治水砂防協会北陸信越地区支部長・参与会議」が、17、18日に「全国地すべりがけ崩れ対策協議会 令和6年度第2回理事会」が開催されました。

7日の支部長・参与会議では、氷見市において、国土交通省の草野砂防部長、全国治水砂防協会の大野理事長による講演、住民避難の促進の取組等の各支部からの議題に対する質疑・意見交換が行われました。8日の現地研修会では、令和6年能登半島地震で斜面崩壊が生じた氷見市の園地区及び高岡市の雨晴地区の応急対応後の現場、防災・減災、国土強靱化のための5ヶ年加速化対策予算により整備した高岡市の五十里道重地区の砂防堰堤を視察しました。

17日のがけ協理事会では、県防災危機管理センター研修室において、令和7年度事業計画、地すべり・急傾斜地崩壊対策事業等の促進に関する要望等の審議、国土交通省の岩男土砂災害対策室長との事業実施に係る意見交換を行いました。18日の現地視察では、園地区、雨晴地区のほか七軒町地区急傾斜地崩壊対策事業と防災公園の整備が一体で実施された氷見市の朝日山公園見晴らしの丘を視察しました。



支部長・参与会議



現地研修会（高岡市雨晴地区）



がけ協理事会及び意見交換会



現地視察（氷見市園地区）

「全国治水砂防促進大会」が開催される

令和6年11月14日（木）、砂防会館別館シェーンバツハ・サボー「利根」において、「全国治水砂防促進大会」が開催されました。富山県からも田中幹夫 富山県治水砂防協会会長をはじめ8名の市町村長等が出席しました【首長出席：南砺市長（会長）、魚津市長（副会長）、滑川市長、立山町長（立山支部長）、上市町長】。

大会では、中野洋昌 国土交通大臣からの来賓祝辞、国土交通省 草野砂防部長より「『いのち』と『くらし』と『みどり』を守る砂防」と題した講演などがあり、最後に砂防事業促進の大会提言について説明がなされ、満場一致で採択されました。大会後には、県選出国会議員へ要望活動を行いました。



全国治水砂防促進大会



要望（野上 参議院議員）



要望（柴田 参議院議員）

富山県砂防ボランティア協会との意見交換

NPO法人富山県砂防ボランティア協会では、県民の土砂災害に関する防災知識の普及と警戒避難体制整備の促進等のため「ワクワク富山を支援する砂防ボランティア連携事業」を県砂防課と協働して実施しており、内容の充実のための意見交換を随時実施しています（本年度は12月18日に実施）。近年の豪雨・地震後に行った施設点検の反省を踏まえ、土木センター・事務所が行う出水期前の施設点検時等に協会員が同行し、事前にアクセス路を確認しておくことや、1巡目の土砂災害警戒区域指定の経験を踏まえ、今後実施する高精度地形図を用いた警戒区域指定の留意点等について、意見交換を行いました。



能登半島地震への対応について砂防関係団体に知事感謝状が授与されました

令和6年能登半島地震において被災した公共土木施設等の応急対策、緊急点検等に尽力したことに対し、令和6年12月17日、一般社団法人斜面防災対策技術協会富山支部（左写真）及びNPO法人富山県砂防ボランティア協会（中央写真）に富山県知事の感謝状が授与されました。

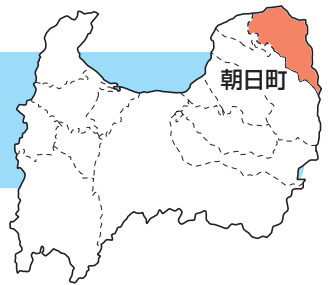
併せて、（一社）富山県建設業協会、（一社）富山県測量設計業協会、（一社）建設コンサルタンツ協会にも授与されました。（当日は蔵堀副知事から授与。右写真は集合写真）





朝日町の土砂災害警戒避難体制の強化に向けた取り組みについて

朝日町建設課 上澤 友希



朝日町は、富山県の東端に位置する町で、北は日本海に面し、南は後立山連峰の一角を占める朝日岳・白馬岳を擁する、海拔0メートルから3,000メートル級までの山岳地帯を有しており、土砂災害警戒区域が179箇所指定されています。

当町では、土砂災害警戒区域と指定避難所までの主な避難経路を記載した土砂災害ハザードマップを令和3年に全戸配布し、町のホームページに掲載しています。この土砂災害ハザードマップの配布にあたっては、町と地元町内会とで協議・調整し、土砂災害警戒区域にかかる地域の自主避難所（指定緊急避難場所）の見直しを行うなど、行政と地元町内会が一緒になって地域の警戒避難体制の強化に取り組んでいます。

迫り来る土砂災害において、被害軽減、また一人でも多くの命を救うためには「公助」だけではなく、住民一人ひとりの「自助」、自主防災活動などの地域が主体となった「共助」の取り組みが重要です。また、急な判断を迫られる土砂災害時には、迅速かつ的確な避難行動が求められることから、日頃より、家庭毎に身近な土砂災害警戒区域や避難場所、避難方法を確認するなど、自分や家族がとるべき行動を整理しておくことが必要です。

朝日町では、土砂災害ハザードマップをはじめとした各種ハザードマップや防災ハンドブックを活用し、自主防災組織のリーダー研修会や地域への出前講座を開催しているほか、

小学生を対象に土砂災害を含む防災・災害に特化したクイズ形式の防災検定を行うなどの防災教育にも取り組み、地域全体の防災力向上に努めています。

今後も、こうした住民一人ひとりの避難体制の強化に向けた取り組みを継続して行うとともに、土砂災害警戒情報などの防災情報については、町の防災行政無線や防災情報アプリ、緊急情報メール、広報車による避難誘導などさまざまな手段を活用し、的確かつ迅速な警戒避難に努めてまいりたいと考えております。



自主防災組織リーダー研修会（朝日町役場）



防災検定（あさひ野小学校）

土木センター・事務所紹介 高岡土木センター小矢部土木事務所の砂防事業

高岡土木センター小矢部土木事務所は、県西部に位置し、メルヘンの街として有名な小矢部市1市を所管しています。小矢部市は、高岡市、砺波市、南砺市、石川県金沢市及び津幡町と接し、市の西北部は標高346mの稲葉山をはじめとする丘陵地帯で、市域の南から北北東に向かって県内5大河川のうちの一つ一級河川小矢部川が貫流しています。桜町遺跡をはじめ倶利伽羅古戦場、絢爛・勇壮な祭礼など、貴重な歴史資源や伝統文化、さらにはメルヘン建築群など歴史ロマンにあふれた施設が数多くあります。

当事務所が所管する区域の面積は134km²で県全体の約3.2%、人口は約28千人で県全体の約2.8%になります。

管内には、土砂災害警戒区域が224区域（土石流38区域、地すべり59区域、急傾斜地127区域）あり、これら警戒区域への対策として、現在、砂防事業8箇所、地すべり対策事業1箇所のほかメンテナンス事業6箇所（砂防2箇所、地すべり4箇所）で事業を実施しています。

とやまの砂防第70号（令和2年8月発行）で紹介した、堤

体内部へ砂防ソイルセメント（現場発生土を有効活用するためにセメント等を混合し固化させたもの）を中詰めるダブルウォール工法を採用した小矢部川水系田川谷内川砂防事業は令和5年度に無事完成しました。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、小矢部市で震度5強を観測し、内山地内においては国道359号が崩落し、その土砂により五郎丸川が埋塞する災害が発生しました。同年3月に災害査定を受け、災害復旧事業により令和6年9月に工事が完了しました。

また、毎年6月の土砂災害防止月間にあわせて、石動小学校の6年生を対象にこども砂防教室を開催しており、裏山の地すべり防止施設見学などを通して砂防事業や地すべり事業について理解を深めてもらっています。

今後とも、土砂災害から人命や財産を守るため、小矢部市、砂防ボランティア協会と連携協力しながら、ハード対策に加えて、土砂災害防止に関するソフト対策も着実に進めてまいります。



田川谷内川砂防堰堤（R6.3）



五郎丸川復旧前（R6.5）



五郎丸川復旧後（R6.9）



こども砂防教室（R6.6）



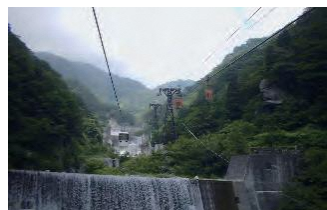
1 プロローグ2

ダーウィンの名言に「最も強いものが、あるいは最も知的なものが、生き残るわけではない。最も変化に対応できるものが生き残る。」とある。(諸説あるようではあるが) 阪神・淡路大震災から5年が経過した平成12年度から4年間、2回目の砂防課勤務となった。砂防事業をはじめとした治水・土砂災害対策は、ダーウィンの名言のように、気候変動や社会情勢など時代の要請に応じて柔軟かつドラスティックに変化しつつあった。

2 エピソード2 (砂防係長時代)

① 治水上砂防のため 雑穀谷12号砂防堰堤

前回砂防課に勤務した5年前から雑穀谷で整備に着手していた人送用ロープウェイ(8人乗り)や貨物用循環索道は既に運転を開始していた。12号砂防堰堤の岩盤掘削も完了し、12年6月議会での工事契約の承認を経て、いよいよ本堤のコンクリート打設の運びとなった。ロープウェイの整備により、現場まで渓流沿いを徒歩で片道1時間かかる所要を10分程度でアクセスが可能となった。急な出水時の避難など安全性や作業効率も大きく向上し、その後の施工も順調に進んだ。



【稼働中のロープウェイ】



【掘削が完了した本堤部】

また、現地見学会も開催可能となり、多くの方々に堰堤の施工や荒廃状況を視察いただき、砂防事業に対する理解や知識を深めていただいた。そのような中、2年目が過ぎようとした春3月、当時の上司から1本の電話。「飛んだ! 飛んだぞ!」、どうやら施工業者が傾いたらしいということは理解できた。速やかに現場を保全するよう指示を受けたが、現地は標高約1000m、積雪も2mを超え、アクセス道路である称名滝に至る県道も冬季閉鎖中で、誰も近づけない。雪解けの5月までは現地確認もできない状況であった。やむを得ず、出来高設計書や検査写真で現場状況を把握した。幸い、堰堤の施工も再開されたが、平成16年には集中豪雨により完成間近の堰堤が大土石流に見舞われるなど、大変な難工事であった。無事完成できたのは、後任の方々のご尽力のお陰であり、深く感謝申し上げたい。



【完成した12号砂防堰堤】

② 土石流対策と自然環境の保全

平成11年6月、広島市や呉市等で集中豪雨に伴う同時多発的な土砂災害が発生。多くの尊い人命が失われた。これを契機として、ハード対策と併せてソフト対策の充実が図られることになり、土砂災害のおそれのある区域の周知や警戒避難体制の整備、新規立地抑制等を目的とした土砂災害防止法(以下、土砂法という)が平成13年4月に施行された。本県でも砂防基盤図の作成や基礎調査の実施など土砂災害警戒区域等の指定に向けた準備が始まった。また、この頃から、本県の砂防事業の軸足が水系砂防(土砂流出に伴う洪水氾濫から下流域を保全)から、地先砂防いわゆる土石流対策(土砂法の対象となる人家等を土石流災害から直接的に保全)へと徐々に移り始めた。水系砂防と土石流対策が混在し始め、国の技術基準等も策定途中であったため技術的な混乱も生じてきた。一方、砂防事業の対象となる渓流は、豪雨時には土砂流出等により被害をもたらすが、平常時には豊かな自然環境や景観を有している。平成5年に環境基本法が成立し、国全体として環境の保全と良好な環境の創出を図ることとされた。これを踏まえ、本県の砂防事業においても、景観

や生態系など自然環境の保全を考慮した「渓流環境整備計画」を平成11年に取りまとめ、個々の渓流の特色を活かした水と緑豊かな渓流づくりを進めてきた。しかしながら、近年、気候変動による集中豪雨が頻発し、土砂災害が激甚化していること等から、人命の保全を優先したスピード重視の土石流対策が進められ、渓流の自然環境と向き合う機会が失われたように感じている。人命最優先は、至極当然のことであるが、渓流の持つ優れた自然環境や景観を次世代に引き継ぐことは、持続可能な社会を実現する上で必要不可欠である。今後、土石流対策などの施設整備を進める際には、対策効果を確保しつつ、渓流や周辺の生態系など自然環境の保全にも更なる配慮を期待したい。

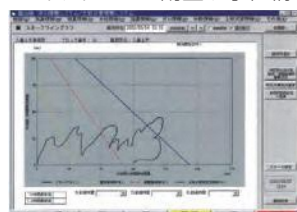


【笹川の渓流環境整備】

③ SABONA (サボーナ) と3つの壁

サボーナとは、初代の富山県土砂災害情報システムの愛称である。(現在の富山県土砂災害警戒情報支援システムの前身)

土砂法の制定と相まって、ソフト対策の一環として整備が進められ、土砂災害発生の危険度や雨量情報等を市町村等へ迅速に提供し警戒避難活動に役立てることを目的としている。サボーナでは、県内の危険箇所を過去の降雨特性や地理的条件から55ブロックに分割し必要な雨量計を整備した。収集した雨量データをスネークライン(縦軸に短期雨量、横軸に長期雨量の指標(実効雨量))をプロットした点を結んだもの。蛇の動きに似ている。)によって解析し、過去の土砂災害と降雨の相関で設定した危険ラインを、今後の降雨により超えるかどうかで土砂災害発生の危険度を判定した。しかしながら、危険度判定の情報提供や運用には3つの大きな壁があった。1つ目の壁は、当時、警戒避難に係る気象情報を発信できるのは原則、気象庁だけであったこと。2つ目は、コンピューターの解析能力も低く、短時間降雨予測も導入前であったため、危険度の判定は例えば今後2時間で50mmの降雨があった場合といった「たれば」の予測であったこと。この2つの壁により、危険度判定は土木センターに情報配信し、必要に応じて市町村に伝達、住民の方へはインターネットにより雨量や水位情報を提供する形で決着した。



【スネークライングラフ(当時)】



【基準雨量概況図(当時)】

最後に3つ目の壁である。当時の上司から気象庁の「アメダス」のような分かり易い愛称を考えると指示を受けた。担当のSさんをはじめ課員総出で案を考え、いくつかの候補に絞ったところで商標権の問題に直面した。専門家に相談したところ、選定した候補が既存の商標権を侵害するとの見解であった。再検討のうえ専門家の確認を経て、「SABO NAVIGATION」の頭文字をとったSABONA(サボーナ)に決定し商標登録を行った。サボーナは3つの壁にぶつかりながらも平成13年度に運用を開始した。予測精度はまだ低かったが、パソコンや携帯電話への雨量情報等の提供など、警戒避難体制の充実に一定の効果があったと考えている。現在、短時間降雨予測が導入され、長期雨量の指標も実効雨量から土壌雨量指数に、予測単位も1kmメッシュときめ細くなり、土砂災害データの蓄積により、予測精度も飛躍的に向上している。何よりも、土砂法の改正により、土砂災害警戒情報の市町村への通知、一般への周知が義務付けられ、富山県砂防課と富山地方気象台が共同で警戒情報を発表されていることは、当時、思い描いていた理想の姿で非常に画期的なことである。その一方で、サボーナが忘れ去られるのは少し寂しい気もするが。(続く)

令和6年度富山県治水砂防協会通常総会の開催

令和6年8月6日、富山県治水砂防協会の令和6年度通常総会が、富山県民会館で開催されました。

議事では、令和5年度の事業報告・収支決算報告、令和6年度の事業計画・収支予算等について審議の結果、すべて承認されました。立山砂防の保全対象である舟橋村が理事となることが承認され、県内全15市町村で砂防事業の促進に取り組む体制となりました。

総会に引き続き、砂防功労者として、永年にわたり本県砂防事業の推進に貢献された市井昌彦氏及び令和5年7月豪雨、令和6年能登半島地震に係る災害復旧に貢献された名畑博文氏が表彰されました。

また、砂防講演会において、国土交通省砂防部の草野部長から「[いのち]と「くらし」と「みどり」を守る砂防」、(一社)全国治水砂防協会の大野理事長から「近年の土砂災害から学ぶ」と題した講演のほか、国土交通省立山砂防事務所の石田所長、黒部河川事務所の湯原所長、神通川水系砂防事務所の石井所長、土木研究所雪崩・地すべり研究センターの吉柳上席研究員センター長から各事務所及び研究所の「事業概要」等について御説明をいただきました。



田中会長による挨拶



市井昌彦氏への表彰



名畑博文氏への表彰



砂防講演会(国土交通省 草野砂防部長)



砂防講演会((一社)全国治水砂防協会 大野理事長)

富山県治水砂防協会 研修会等の開催・参加

富山県治水砂防協会では、協会会員に対して砂防事業の認識と理解を深めるため、研修会等の開催や参加促進等を行っています。

○令和6年8月2日(金)「第11回土砂災害対策実務者講習会」

場所: 砂防会館別館

(一社)全国治水砂防協会開催の講習会を計5名が受講しました。(参加市町: 富山市、立山町)

○令和6年10月1日(火)「立山砂防現地視察」

場所: 立山カルデラ内

直轄砂防事業の現地視察を開催したところ、計17名に参加いただき、重要文化財の白岩堰堤や立山温泉跡地、多枝原平展望台等を巡る行程で、立山砂防事務所の方から分かりやすく解説をいただきました。(参加市町: 富山市、高岡市、立山町)



多枝原平展望台にて



白岩堰堤にて



六九谷展望台にて

主な砂防関係活動広報・報道等実績 [R6.1~12] (富山県治水砂防協会しらべ)

(新聞等) OR6.2.18 北日本新聞 「落語で立山砂防伝える」、OR6.2.28 北日本新聞 「富山の野鳥、剥製で紹介 立山砂防博物館で展示、剥製師の長谷川さん(東京)制作」、OR6.3.7 北日本新聞 「[4段に分かれる落差日本一]の称名滝、段数増えた? 立山砂防博物館、60年ぶり地形調査へ」、OR6.4.21 北日本新聞 「昭和基地の観測隊員とライブトーク 立山カルデラ砂防博物館、隊員の日常生活紹介」、OR6.4.25 富山新聞他1社 「立山砂防の絵本寄贈 県内小学校に女性サロンの会 災害へ意識高める」、OR6.5.7 富山新聞 「災害対策で石川から分離 置県の歴史 カルデラで学ぶ」、OR6.5.10 北日本新聞 「7、9月カルデラツアー 「県民ふるさとの日」記念」、OR6.5.28 北日本新聞他1社 「砂防工事用軌道が損傷 立山カルデラ」、OR6.6.2 北日本新聞 「災害リスク再認識を 立山砂防博物館で特別展 能登地震の県内被害分析」、OR6.6.3 読売新聞 「大地の営み 南極で体感」、OR6.6.12 富山新聞他1社 「立山砂防 世界に発信 オーストラリアで学会 県、VRを活用」、OR6.6.13 北日本新聞 「砂防の仕組み分かったよ 石動小で教室 模型使い紹介」、OR6.6.16 北日本新聞 「砂防や災害に理解深める 国交省など講演会」、OR6.7.3 北日本新聞他1社 「砂防事業の大切さ理解 カルデラ博物館 立山小5、6年生見学」、OR6.7.20 北日本新聞 「災害の恐ろしさ知って 立山カルデラ博物館で三霊山の生い立ちや砂防の歴史紹介」、OR6.7.31 富山新聞他1社 「佐渡金山登録決定で知事 暫定リスト入りに意欲 立山砂防を世界遺産に」、OR6.8.5 北日本新聞 「雪崩の脅威、ピンポン玉で体験 立山カルデラ博物館で親子向け科学ショー」、OR6.8.7 北日本新聞他1社 「土砂災害防止施設 財政措置求め決議 県治水砂防協会」、OR6.8.27 朝日新聞 「三霊山から学ぶ自然、南海トラフの備えも 立山カルデラ砂防博物館」、OR6.9.4 北陸中日新聞 「立山カルデラに砂防学ぶ 大学生4人が「キャンプ」」、OR6.10.3 富山新聞 「斜面崩壊現場を視察 県議会砂防議員連盟の17名」

(テレビ) OR6.4.24 チューリップテレビ 「とやまを学ブー 教えて!ケロ先生(富山県の誕生日!県民ふるさとの日)」

(SNS) ○富山県公式X[フォロワー数約52,000人] (R6.6.7投稿 「砂防フェア2024」開催、R6.6.27投稿 立山砂防コースプログラム(親子コース)参加者募集、R6.7.1投稿 立山砂防コースプログラム(高校生・大学生等コース)参加者募集、R6.7.10投稿 立山カルデラ砂防体験ツアー参加者募集、R6.12.1投稿 「雪崩防災週間」)、○富山県土木部公式Instagram いいね!とやまの土木(富山県土木部) (R6.6.7投稿 「土砂災害を学ぼう「砂防フェア2024」を開催します!」、R6.7.2投稿 「書道パフォーマンスでの作品を富山県防災危機管理センター1階へ展示しました!」)、○富山県立山カルデラ砂防博物館公式X (2019年6月の開設以来、2024年12月までの間に約1,360件の投稿実施。(年平均約240件投稿))、○富山県立山カルデラ砂防博物館公式Instagram (2016年1月の開設以来、2024年12月までの間に約760件の投稿実施。(年平均約90件投稿))

(イベント等) OR6.6.8 砂防フェア2024(総曲輪フェリオ グランドプラザ)、OR6.9.28 けんせつ×メテックフェス2024(富山駅イベントスペース)、○立山カルデラ砂防博物館 企画展等[「日本三霊山・自然と砂防」展 他多数]

富山県総合防災訓練及び市町総合防災訓練への参加

砂防課では、毎年、県民の土砂災害に対する防災意識の向上を図るため、富山県総合防災訓練及び市町総合防災訓練に参加し、NPO法人富山県砂防ボランティア協会と共同で土砂災害に関する展示・説明、ミニ講座を実施しています。

今年度は富山県総合防災訓練が9月29日(日)に黒部市総合公園等にて開催され、土砂災害に関するパネル展示・説明を行いました。また、魚津市、南砺市の総合防災訓練においても展示等を行いました。参加者の方々は、1月1日に発生した能登半島地震による土砂災害の発生状況等パネルを熱心に見学しておられ、土砂災害に対する関心の高さがうかがえました。



砂防ボランティア協会員によるパネル展示説明
(R6.9.29県総合防災訓練)



パネル展示の様子
(R6.10.7南砺市総合防災訓練)



土砂災害に関するミニ講座
(R6.9.29魚津市総合防災訓練)



新田知事の巡見
(R6.9.29県総合防災訓練)

富山県議会砂防事業促進議員連盟の活動

富山県議会砂防事業促進議員連盟(会長:中川忠昭議員、会員32名)では、令和6年10月2日に現地視察を行い、会員17名が参加しました。令和6年能登半島地震により崩壊した高岡市太田地区「道の駅雨晴」北側斜面や、氷見市園地区の住宅近くの崩壊斜面での応急対応状況のほか、高岡市五十里道重地区の砂防堰堤整備箇所を視察し、説明を受けました。

また、令和6年6月15日に富山市内で開催された「砂防講演会」(主催:国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所・立山砂防女性サロンの会)には、会員6名が参加しました。近年の全国での土砂災害への対応や、日本から伝えられたインドネシアの砂防技術について理解を深めました。



高岡土木センターによる高岡市太田地区「道の駅雨晴」
北側斜面被災箇所の説明:がけ崩れ



高岡市五十里道重(2)地区 砂防堰堤(土石流対策)、防災・減災、国土強
靱化のための5か年加速化対策予算を活用し、令和5年度に整備完了



砂防講演会
(講師:国土交通省 砂防施設評価分析官 植野利康氏)

「防災講演会in小矢部市」の開催

令和6年11月23日(土)に、砂防防災講演会実行委員会と小矢部市の主催で小矢部市民交流プラザ多目的ホールにおいて「防災講演会in小矢部市」が開催され、約170名の方が参加されました(後援:国土交通省立山砂防事務所・黒部河川事務所、富山県砂防課)。基調講演では、一般財団法人砂防フロンティア整備推進機構上席研究員の蒲原潤一氏(前国土交通省保全課長)から、「砂防のものづくりの源流を訪ねて」と題して、先人の残した砂防技術などが紹介されました。また、立山砂防事務所長の石田孝司氏から立山カルデラでの直轄砂防事業に関する報告などがありました。会場では、防災に関するパネル展示や映像放映も行われ、国や県の砂防事業の紹介のほか、富山県防災士会のブースも充実しており地域の防災意識の向上が図られるよう工夫されていました。



会場内でのパネル展示



砂防フロンティア整備推進機構 蒲原上席研究員



国土交通省立山砂防事務所 石田所長

富山県 立山カルデラ砂防博物館ニュース

「立山や立山カルデラの自然や歴史、そこで行われている砂防」をテーマに様々な企画、展示を行っています。

★申し込み、詳細については博物館までお電話ください。 TEL. 076-481-1363 (学芸課)

◆今後のイベント案内

収蔵品展「立山のたからもの」(観覧料：無料) 開催期間：令和7年2月8日(土)～3月16日(日)

立山カルデラ内の新湯で産出される玉滴石や立山ケーブルカー沿いに見られる材木石など博物館が収蔵している珍しい鉱物や岩石を展示します。

公募写真展「レンズが見た立山・立山カルデラ ー大地と人の記憶ー」(観覧料：無料)

開催期間：令和7年3月1日(土)～4月6日(日)

立山や立山カルデラ、常願寺川の大地や人の営みをテーマにした作品を紹介します。

立山カルデラ砂防体験学習会(参加者負担金有り) 開催期間：令和7年7月～10月まで(予定)

※立山カルデラ砂防博物館ホームページ又は県施設・市町村役場等で配布している「応募のてびき」をご覧ください(5月中旬頃より公開・配布予定)。

◆令和6年度活動報告

特別展「春の立山 雪の壁のひみつ」

開催期間：令和6年4月15日(月)～6月30日(日)

立山黒部アルペンルートの開通に合わせ、春の立山の風物詩「雪の大谷・雪の壁」についての特別展を博物館エントランスホールで開催しました。1998年から2024年まで過去26年間の雪の壁の高さのグラフ、雪の壁の作り方、どうして雪の壁では雪が多いのかについて壁面パネルで紹介しました。雪の大谷は2000年まで1車線分のみ除雪されており、時間を決めて車を通行止めにして見学していました。そこで、雪の大谷・雪の壁今昔コーナーと称して1998年頃と現在の雪の大谷の写真を展示したところ、「昔はこうだった」と懐かしそうに見入っている高齢の来館者もおられました。



柳木昭信写真展「立山・雪～水巡る～」

開催期間：令和6年4月15日(月)～5月19日(日)



郷里 立山の自然を30年以上撮り続けている柳木昭信氏の写真展を開催しました。立山の豊富な積雪量、春になると雪解け水として川を流れ富山湾、そして日本海へと流れ出す、本写真展では標高3,000mから富山湾までの水の循環をテーマとした作品約50点を紹介しました。

厳冬の立山や剱岳方面の氷河、そして本展示開催にあたり、新たに雨晴海岸などの作品も展示しました。

また、企画展示室内では、ライチョウの1年を写した組写真を、大型コルトンを使って紹介しました。

どの作品の前でも、じっくりと見入っている来館者が大勢おられ、氏が写す「水」の様々な表情、自然の美しさなどを感じ取ってもらえたのではないのでしょうか。

土砂災害防止月間特別展「地震と土砂災害」

開催期間：令和6年6月1日(土)～6月30日(日)

土砂災害防止月間にあわせて地震と土砂災害の特別展を開催しました。令和6年能登半島地震の際に発生した土砂災害の概要を紹介したパネル(富山大学名誉教授竹内章氏監修)、国土交通省北陸地方整備局が作成した富山県内の液化化しやすいマップ、県内の各市町村が作成した水害、土砂災害、津波、

火山の各種ハザードマップ、国土地理院が作成した富山県内の都市圏活断層図と治水地形分類図を展示しました。元日の地震による防災意識の高まりの影響が熱心に見られる来館者が大勢いました。



企画展「日本三霊山 ー自然と砂防ー」

開催期間：令和6年7月20日(土)～9月23日(月)

令和5年1月に富山・石川・静岡の3県が「日本三霊山」連携協定を締結しました。連携事項は文化・学術、観光、スポーツ等で、目的は三県の地域振興と交流拡大です。本企画展では、日本三霊山である立山、富士山、白山の私たちと災害、砂防事業について紹介しました。

富士山のコーナーでは、富士山は古い順から先小御岳、小御岳、古富士、新富士の4階建ての火山になっていることをパネルで紹介したり、2001～2004年に東大地震研が富士山北麓で掘削した先小御岳火山のボーリングコアを展示したりしました。また、最新噴火である宝永噴火(1707年)の地層はざとり標本も展示しました。静岡県御殿場市や小山町付近では、噴火開始からわずか24時間で1m近く火山灰が積もったことを知り、驚かれる来館者がおられました。

白山のコーナーでは、火山岩の新たな年代測定に基づく白山の私たちについての最新の研究成果を分かりやすくパネルで展示しました。また、白山の砂防事業は、立山砂防を始めた砂防知事とも呼ばれる李家隆介が、大正元年に手取川の上流部、荒廃著しかった柳谷や甚之助谷で山腹工や砂防堰堤の施工に着手したことがはじまりで、国直轄後(昭和2年～)は赤木正雄が別当出合の出張所の初代所長に就任するなど立山砂防と関係が非常に深いことも紹介しました。

このほか、土石流や雪崩など粉粒体の流れを体感してもらうピンポン球雪崩実験、ミニチュア三禅定コーナーなども展示しました。特に5年ぶりに実施したピンポン球雪崩実験は子どもたちにも大好評でした。このため、企画展の来館者数は徐々に1万人を超えました。



**立山カルデラ
砂防博物館の
開館案内**

開館時間：通常開館9:30～17:00(入館は16:30まで)

休館日：月曜日(祝日除く)、祝日の翌日(土・日曜日除く)、年末・年始(12/28～1/4)

※開館時間、休館日は博物館HPにて最新情報をご確認ください。(早朝開館、臨時開館・閉館等あり) 観覧料：立山カルデラ展示室・大型映像の観覧料として一般400円(大学生以下、70歳以上無料)、企画展示室・SABO展示室は無料 所在地：〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂68 TEL.076-481-1160/FAX.076-482-9100 <https://www.tatecal.or.jp/tatecal/index.html>



富山県治水砂防協会

〒930-8501 富山市新総曲輪1-7 富山県庁砂防課内 076-444-3341 <https://www.pref.toyama.jp/1505/bousaizenzen/toyamanosabo.html>